

講評

検定会主任 高橋裕二

検定会、お疲れ様でした。検定会について講評を述べます。

基礎種目の中では、プルークボーゲンの合格率は、82%と全体を通して一番高い結果でした。横滑りの展開は 50%と低い結果となりました。

横滑りの展開において、「大」の部分ではしっかりとした外向が取れず、荷重感のない滑りとなり、「小」の部分では腰が回り左右に動いてしまう滑りが多く見受けられました。「大」では、しっかりとした荷重感で斜め下へ横滑りし、補助動作を使い素早く方向を変え滑ってほしいと思います。「小」では腰が回らないようにし、下方向ヘスキーを落とす補助動作とストックを活用し、小回りのようなリズムを意識してほしいと思います。

滑走プルークからの基礎パラレルターンへの展開は、展開しないまま終了する、若しくは早くから展開しすぎる滑りが目につきました。限られているエリアでスキーの形状が順に展開(変化)していくところを検定員にしっかりと見せてほしいと思います。

実践種目の中では、シュテムターン及びパラレルターン(大回り)の合格率がともに 64%と高く、不整地小回りが 50%と低い合格率となりました。

不整地小回りは、スキーを早くから横に向け、なかなかゴールへたどり着かず、不整地をあまり滑り慣れていないような受検者が多く見受けられました。種目練習をする中に、不整地の種目もしっかりと取り入れ、先ずは不整地に慣れることから取り組み、克服してほしいと思います。

実践種目全体的には荷重感が少なく、板の上に乗せられて降りてくるような受検者が多く、自分から板に荷重しスキーをたわまし、サイドカーブ以上のターン弧を描けるようにしてほしいと思います。

理論は受験生全員がしっかりと勉強されており、合格ラインよりかなり高い点数であったことは、大変良かったと思います。

以上、講評とします。ありがとうございました。